

平成23年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢北陵高等学校

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 遅刻・欠席を減らし服装容儀を整えるなど基本的生活習慣の一層の確立を目指す。	①全職員で時間厳守について指導を徹底するとともに、保護者との連絡を密にするなどして、遅刻・欠席の減少に努める。また、登校指導等により挨拶の励行を推進する。	【成果指標】遅刻者数が1日平均 A 3人未満であった B 5人未満であった C 7人未満であった D 7人以上であった	4月～1月 遅刻者613人 対前年比 83% 3. 8人 B	遅刻者は前年を下回った（前年比83%）が、中間評価時（1日2.8人）より増えB評価となった。遅刻者は4年連続で減少し最多時の約半数近くにまでなったが、まだ少ないといえる状態ではない。次年度も引き続き職員全体で取り組んで行く。なお、昨年増加した欠席者は今年は減少した（前年比67%）。しかし一昨年はまだ12%超過している。今後も遅刻・欠席をさらに減少させ、基本的生活習慣の確立に努めたい。
		【成果指標】（生徒）自ら進んでの挨拶が A よくできている B だいたいできている C あまりできていない D ほとんどできていない	A 23. 5% B 57. 4% C 16. 3% D 2. 7% A+B=80. 9%	A+B=80%強で中間評価時とほぼ同じ結果となり、目標値（80%）を満たした。ただB評価が半数以上あり、学校全体で挨拶がかわされている、といえる状態ではない。今後も登校指導や授業開始時などにおいて教員から積極的に声をかけ、挨拶の重要性を伝えたい。
	②服装容儀の指導を徹底し、生徒の規律・マナーの向上を目指す。	【満足度指標】（生徒）北陵生は頭髪・服装容儀やマナーなどについて A よく守っている B だいたい守っている C あまり守っていない D ほとんど守らなかった	A 23. 1% B 60. 0% C 14. 1% D 2. 7% A+B=83. 1	生徒の頭髪・服装容儀に関する自己評価はA+B=83%で目標（80%）に達した。しかし繰り返し注意を受ける生徒への指導に教員が苦慮する場面もあり、保護者との連携に一層留意しながら、教職員が一致して指導を継続して行っていく。
	③生徒の行動に注意を払い、生徒の面接や保護者との連絡をより密にし、学校組織として生徒理解を深める。	【満足度指標】（生徒）自分の行動や悩みについて先生方は A いつも注目し相談に乗ってくれた B だいたい注目し相談に乗ってくれた C あまり注目せず相談に乗ってくれなかった D ほとんど注目せず相談に乗ってくれなかった	A 13. 9% B 56. 1% C 22. 4% D 7. 6% A+B=70. 0%	支援・助言指導に関し教職員に対する生徒の評価は、A+B=70%で目標値（80%）に達しなかった。また中間報告時より4%減少した。生徒の言動に常に注意を払い、普段からコミュニケーションを保ち、適切な声かけを行っていく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		今年も遅刻者数の減少は継続しており、職員全体での取組を評価できる。ことしは1日当たりの遅刻者を評価基準としたが妥当であると考える。中間評価時にAだったものが、最終評価でBとなったのは残念である。次年度このことを踏まえた指導をお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		次年度も同じ評価基準で取り組みたい。9月以降に遅刻者が増加したことを職員全体で共通認識を持ち、1日当たり3人未満の目標を目指したい。遅刻しないことや挨拶は社会生活の基本であることを様々の機会を捉えて指導していく。		
2 少人数授業の工夫など授業改善に努め、基礎学力を定着させるとともに、生徒一人ひとりに応じた学力の向上を図る。	①研究授業や公開授業を積極的に行い、授業改善に努める。	【努力指標】（教職員）授業では生徒の発言や活動を増やす授業の工夫に A 積極的に取り組んだ B ある程度満足できる取り組みができた C 積極的な取り組みはできなかった D ほとんど取り組みなかった	A 25. 0% B 65. 9% C 9. 1% D 0% A+B=90. 9%	教員にとって授業改善の取組は不可欠であり、90%以上の教員が生徒の学習活動を増加させる授業の工夫を行い目標値（80%）は達成できた。D評価は0であった。教員の意識としては授業改善にある程度取り組んだ、といえる。次年度も積極的に授業の研究実践に取り組み、基礎学力の定着や進路目標の実現を図りたい。
	②わかる授業を行うとともに、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努める。	【満足度指標】（生徒）わかる授業や興味関心を引き出す授業の工夫が A 十分に感じられる B だいたい感じられる C あまり感じられない D ほとんど感じられない	A 12. 5% B 57. 7% C 23. 4% D 6. 4% A+B=70. 2%	①に対応して、生徒側の受け止め状況を尋ねた。教員の授業取り組みへの工夫を感じた生徒はA+B=70%で目標値（80%）に達しなかった。教員が思うほど改善努力が生徒に伝わっていない。はっきり伝わる一層の授業改善が必要である。なお、1年生の76%に対し、2年生が62%と低い評価であった。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③授業以外の時間での学習習慣の定着を図る。	【成果指標】授業以外の平均学習が、1時間以上の生徒が、 A 70%以上である B 50%以上～70%未満である C 20%以上～50%未満である D 20%未満である	4月～1月平均 44.0% C	1時間以上学習する生徒は半数以下であり、学習習慣の確立はまだ不十分だが、昨年度の42.1%は上回った。毎年少しずつだが数値は上昇している。定期考査年5回も定着し、考査月の学習時間は向上している。今後は考査の有無に左右されない学習指導を行い、基礎学力定着を目指す取組を強化したい。 1年生：37.6%、2年生：41.5%、3年生：53.2%
	④個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	【努力指標】（教職員）授業外で補習や個人指導を A 積極的に行っている B 必要に応じて行っている C 時々行っている D ほとんど行っていない	A 22.7% B 43.0% C 26.2% D 8.1% A+B=65.7%	授業以外で補習や個人指導についてはA+B=65.7%で目標値（A+B=80%）に達せず、前年度比でも低下した。次年度は通常の学習指導だけでなく、表現力育成や基礎学力定着に関し、朝自習等をととして全職員がきめ細かく対応する取り組みを考える。
学校関係者評価委員会の評価	②で評価基準を変更し、教員の取り組みに対する生徒の受け止め状況を聴いたことは評価できる。①での教員の自己評価と生徒の評価には20%の開きがあったが、授業改善により活性化し生徒の評価が上がることを期待する。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	年間2回実施の生徒による授業評価の結果をしっかりと受け止め、少人数授業に限らず授業改善への取り組みをさらに進め、発言・発表の機会をととして生徒が学ぶ意欲を高める努力を続けていきたい。④ではこの評価方法に適さない教科もあるので、評価方法を改善したい。			
3 組織的な進路指導により履修や進路についてのガイダンス機能を充実させ、生徒一人ひとりの進路の実現を図る。	①各学年に応じた進路学習を工夫し、主体的で継続的な学びができるように支援する。	【努力指標】（教職員）本校教育課程を理解し、生徒への助言支援が A 十分に助言・支援できる B おおむね助言・支援できる C あまり助言・支援できない D ほとんど助言・支援できない	A 17.8% B 66.7% C 15.5% D 0% A+B=84.5%	総合学科高校では教員が教育課程を理解熟知した上で、生徒の系列・科目選択を一人ひとり丁寧に指導することが必要である。昨年度（目標値70%）は90%以上だったので今年度目標値を90%に引き上げた。しかしA+B=84.5%となり（中間値より上昇したが）目標値に達しなかった。新教育課程への移行期であり、適切な助言指導を全職員が行えるよう、指導力の向上に努めたい。
		【満足度指標】（生徒）進路行事・「産社」・「総合」の学習が A 進路を考える上で、大いに役立った B ある程度役立ったと感じる C あまり役立たなかった D まったく役立たなかった	A 21.8% B 61.5% C 13.4% D 3.3% A+B=83.3%	A+B=83.3%で目標(80%)は達成したが、昨年よりやや減少した。生徒の職業観や進路目標の確立について「産社」「総合」は重要な学習と位置づけており、内容を精査し、次年度さらに評価が高まるよう企画、進路、学年の連携をとりながら実施していく。
	②個別指導や各種資格、検定試験に対する取り組みを強化する。	【成果指標】受検者数（延べ）が A 1000人以上であった B 850人以上～1000人未満であった C 750人以上～850人未満であった D 750人未満であった	1132人 A	各種検定受検者総数は1132名でA評価であった。国語関係：391人、工業関係：278人、商業関係：447人が主な検定である。漢字検定を1、2年生全体で取り組んだことが1000人を超えた要因と考えられる。工業、商業関係では従前通り一人が多種複数の検定を受験した。検定への挑戦は学習への動機付けになるほか、進学・就職に向かう意志を強化する役割を持っており、今後も奨励していきたい。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
	③保護者や関係機関と連携を深め、進路指導の充実を図る。	【満足度指標】（保護者）提供された情報に対して A 満足できた B ある程度満足できた C あまり満足できなかった D 満足できなかった	A 23.3% B 62.0% C 12.4% D 2.3% A+B=85.3%	提供された情報に対する満足度A+B=85.3%で目標値（80%）に達し、昨年度（79.4%）より6%増加した。進路説明会や進路関係資料が評価されたものと思われる。次年度は情報の内容、伝達手段等も検討し、さらに好評価を得られるよう取り組んでいく。
学校関係者評価委員会の評価	①の教員の努力指標でD評価の0はよいが、C（あまり助言・支援できない）が15%あるのは多いのではないかとはいえない。各種検定受検者数が千名を超えA評価となったことは良かった。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	①については、本校は総合学科高校であり、系列選択も絡んで教育課程も複雑な面はあるが、教職員全員が科目選択などの際、生徒支援をしっかりと行えるよう総合学科の教育課程全体を理解し、生徒への指導力を高めていく。			
4部活動の積極的な加入・活動を推進し、その活動を通して活力ある学校生活の充実を図る。	①部活動の活性化を目指す。	【努力指標】（教職員）部活動の指導に A ほぼ毎回参加し、十分な支援ができた B 週2～3回参加し、概ね支援した C あまり参加せず、十分な支援をしていない D ほとんど参加せず、支援もしていない	A 36.3% B 36.3% C 27.4% D 0% A+B=72.6%	部活動の活性化に対する教員の支援・運営状況はA+B=72.6%で、目標値を70%から80%に上げたこともあり、目標値に達しなかった。部活動を学校における生徒理解・生徒指導の大きな柱として位置づけしており、次年度も部加入率を向上させるとともに、部活動に対する教員の支援・運営を促していく。
		【満足度指標】（生徒）私は A ほぼ毎回部活動に参加した B 週2～3回部活動に参加した C あまりできなかった D できなかった	A 47.7% B 24.2% C 9.2% D 18.9% A+B=71.9%	A+B=71.9%で目標値（70%）に達した。部活動は充実した学校生活を送る上でも、進路実現に向けても重要な要素であり、新入生への加入推進指導を充実させて、さらなる活性化を図りたい。
	②地域行事・学校行事等に参加し、地域との連携を密にする。	【成果指標】地域行事やボランティアなどに一度は参加した生徒が（半期） A 200人以上 B 150人以上～200人未満 C 100人以上～150人未満 D 100人未満	前期 233人 A 後期 191人 B	後期は生徒会を中心としたいしかわ特別支援学校との交流、JRC部を中心とした地域行事への参加、竹林の伐採・整備、募金活動などボランティア行事へ参加した生徒数は200人近くに上った。前期（1学年の地域清掃活動など）より減少したが、年間を通して活発であった。次年度も引き続き参加への働きかけを強化していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動は学習とともに学校活動の大切な要素であるので、一層盛んになるよう取り組んでほしい。生徒の活動が新聞報道などに取り上げられることも大切であり、広報の充実を望む。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	現在部活動の加入率は75%で決して高いとは言えない。新年度に向けて加入率を高め、活性化を図りたい。①の評価内容は文化部を含めた活動全体を評価するには必ずしも適切とはいえないので、文言を改めたい。新入生を中心に部活動加入を勧めたい。地元メディアと連携を深め、生徒の活動が掲載されるよう図っていききたい。			